

**製品名: TIE2 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab18924**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	120kDa

## 抗原情報

遺伝子名	TEK Angiopoietin-1 receptor (EC 2.7.10.1;Endothelial tyrosine kinase;Tunica interna endothelial
別名	cell kinase;Tyrosine kinase with Ig and EGF homology domains-2;Tyrosine-protein kinase receptor TEK;Tyrosine-protein kinase receptor TIE-2;hTIE2;p140 TEK;CD antigen CD202b)
遺伝子 ID	7010.0
SwissProt ID	Q02763
免疫原	ヒト TIE2 ポリクローナル由来の合成ペプチド

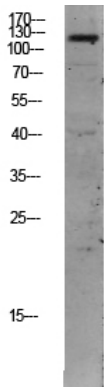
## 背景

この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼ Tie2 ファミリーに属する受容体をコードしています。コードされているタンパク質は、2つの免疫グロブリン様ドメイン、3つの上皮成長因子 (EGF) 様ドメイン、および3つのフィブロネクチン III 型リピートを含む独自の細胞外領域を有しています。リガンドであるアンジオポエチン-1はこの受容体に結合し、胎児の血管発達に機能するシグナル伝達経路を媒介します。この遺伝子の変異は、皮膚および粘膜の遺伝性静脈奇形と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが他にも報告されていますが、その全長は不明です。 [RefSeq 提供、2014年2月],触媒活性:  $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシリン酸$ 。疾患: TEK の欠陥は、優性遺伝性静脈奇形 (VMCM) [MIM:600195]の原因です。VMCMは、拡張した蛇行したチャネルを特徴とする血管形態形成の異常です。機能: このタンパク質は、アンジオポエチン 1 のタンパク質チロシンキナーゼ膜貫通受容体です。哺乳類の内皮細胞系譜における最古のマーカである可能性があります。おそらく、血管形成中の内皮細胞の増殖と分化を制御し、適切なパターン形成を誘導します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。Tie サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。類似性: 3つのEGF様ドメインを含む。類似性: 3つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。組織特異性: 主に内皮細胞とその前駆細胞である血管芽細胞に発現する。胎盤と肺に直接発現しており、臍帯静脈内皮細胞、脳、腎臓にも低レベルで存在する。

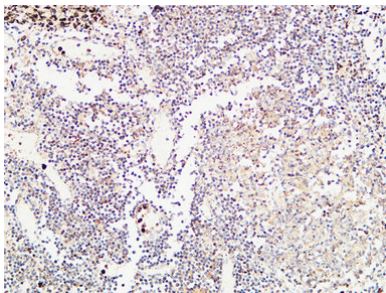
## 研究分野

血管新生

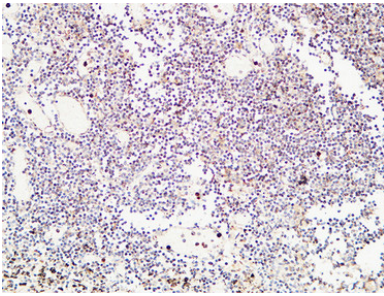
## 画像データ



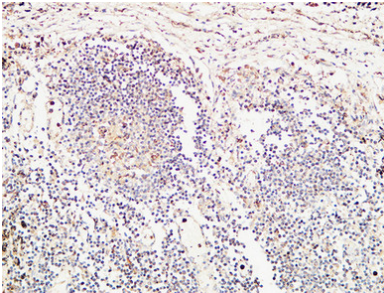
CACO2 溶解液のウェスタンブロット分析、抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。



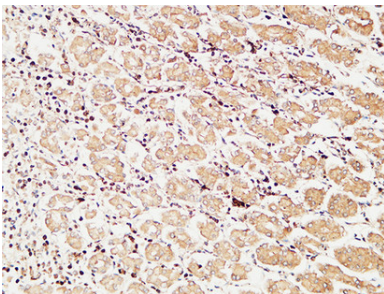
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



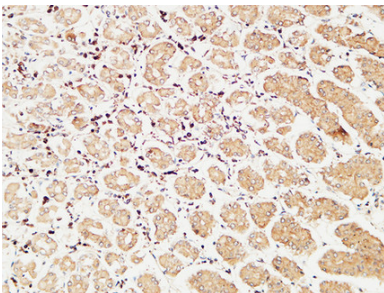
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



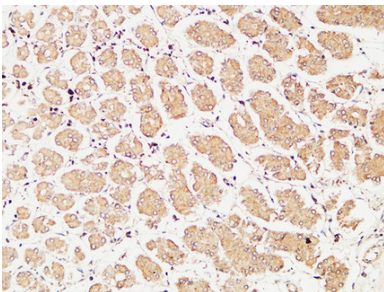
パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。